

## 「とっても感謝」

県立神戸高等学校長  
新谷 浩一

### ○ 遠く、社の地にて

朝、地獄坂を登り、校長室に入るとまずは第一グラウンドを見下ろします。野球部の生徒がノックを受け、陸上競技部の生徒がその周りを走っているのはいつもの光景ですが、そのなかでひとつ気になっていたのが女子サッカー部の生徒がスタンドに向かって蹴るボールの勢いが日に日に増していたことです。

それでも聞くところによると、津田先生が監督に就任して以来、公式戦では勝ったことがないとのこと。そろそろ念願の初勝利も近いのではと思っていました。残念ながら兵庫高校との定期戦には出番のない女子サッカー部ですので、なかなか試合を見るチャンスもありません。そこで県総体の一回戦、社高校のグラウンドで行われる社高校との試合を見に行かせてもらいました。



体格では劣る本校の選手達でしたが、怪我のために出場できない選手の思いも背負い、押しに押されながらも健闘していました。ゴールキーパーを要としたディフェンス陣の頑張りも目立ちました。もう卒業した先輩方や入部したばかりの1年生の応援の声もよく聞こえましたね。相手校に2点を先制され、「ここまでかな…」というところから意地の1点を取り返したシーンには胸が躍りましたね。



最後の最後まで1点を追いつけたものの、一步届かず試合は終了。涙にくれる中、2年生の生徒は私に誓ってくれました。「来年こそ勝つので、絶対にまた見に来てください」と。だから私は「見に来るよ。いいチームをつくって、先輩たちに恩返ししてな」と伝えました。実にいい姿でした。女子サッカー部の皆さん、本当にありがとう。

かくしてその2日後は兵庫高校との春季定期戦のための壮行会でした。「ここは力を出し切りたい」という場面で「力を出し切れる人になりましょう」と私は伝えました。自治会長は「全力で挑んでください」との言葉でした。自治会長と順番に話す場面は多いのですが、常にシンクロしている気がするの嬉しいですね。

### ○ かくして迎えた春季定期戦



大正2年、1913年に始まったという兵庫高校との定期戦。今から実に110年以上も前のことです。ちなみに当初は兄弟校と言われる一中と二中の野球定期戦として年1回、春に行われるようになったのが始まりだそうです。

その後、5月に野球、12月にラグビーの対抗戦が実施されるようになり、昭和42年から今のように種目を拡大して開催することになりました。両校の勢いがあってこそ繋いでこられた絆。実に尊いですね。

会場は総合運動公園。実にいい環境です。空も見事に晴れました。とにかく私の目標は全6競技を応援すること。広い会場内をさんざん歩き回らせていただきました。まずは女子のバレーから。



ベンチも一体となって戦う姿が印象的でした。続いてテニスコートでの男女ソフトテニスへ。結構、日差しが強くなっていました。続いてサッカーへ。一進一退の攻防は実に見所が多いものでした。同点に追いついたペナルティキックとそのあとの歓喜のシーンはよかったですね。



それでも、この時点で検討むなく神戸高校は4敗でした。残るは男子バレーボールとメイン競技の野球。私は体育館に急ぎました。

期待を背負った男子のバレーボール。いいチームワークでこれまた一進一退の攻防を見せてくれました。結果は23対25、23対25で2セットを取られてしまいました。これ以上はない悔しい負け方でした。



さあ、兵庫高校と神戸高校の全校生徒を前にした最終メイン競技となった野球。去年は終盤に追いつかれ、逆転負けを喫しました。部員は「先輩の分まで…」との気持ちでいっぱいでしたが、残念な結果となり、すべての勝利を兵庫高校に譲る結果に。でも、実にいい定期戦でしたね。自治会長が壮行会でお願いしてくれていた「競技する生徒も応援する生徒も相手へのリスペクトを忘れないでいきましょう」という言葉を皆で具現化してくれていました。これでこそ、定期戦です。皆さんにとっても感謝の1日でした。

でも、秋はもっともっと喜ばせてくれると嬉しいですね。

